

「自ら学び続け 学び合う子供」 ガイドブック

Version.1



令和4年5月
西部教育事務所

目 次

- 1 「学び」への誘い P. 1
 - (1) 学習指導要領が目指すこと
 - (2) 「自ら学び続け学び合う子供」を育む教師の役割

- 2 学習指導
 - (1) 授業 P. 4
 - ア 授業を学びへ
 - イ 授業を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿
 - ウ 授業を学びにするための授業づくりチェック
 - エ 関連資料

 - (2) 家庭学習 P. 6
 - ア 家庭学習を学びへ
 - イ 家庭学習を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿
 - ウ 家庭・地域との連携
 - エ 関連資料

- 3 生徒指導
 - (1) 生活上の問題 P. 8
 - ア 生活上の問題を学びへ
 - イ 生活上の問題を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿
 - ウ 生活上の問題を学びにする際に大切にしたい3つの視点
 - エ 関連資料

 - (2) 魅力ある集団づくり P. 10
 - ア 魅力ある集団づくりを学びへ
 - イ 魅力ある集団づくりを学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿
 - ウ 魅力ある集団づくりを行う機会
 - エ 関連資料

(3) 不登校

P. 1 2

ア 不登校を学びへ

イ 不登校を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿

ウ 不登校に取り組む際の3つのステップとその流れ

エ 関連資料

(4) いじめ

P. 1 4

ア いじめ問題を学びへ

イ いじめ問題を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿

ウ いじめ問題に取り組む際の3つのステップとその流れ

エ 関連資料

【別冊資料】

資料 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実】

資料 指導案作成

指導案の意義と一般的な構成

指導案作成のためのポイント

指導案の記述例

資料 授業を学びにするための教師の役割 Q & A

(ア)つかむ・見通す

(イ)考える・考え合う

(ウ)まとめる・振り返る

・ 1 「^{いざな}学び」への誘い

(1) 学習指導要領が目指すこと

学習指導要領 総則の冒頭、以下のようなことが書かれています。

「今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。」

「このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。」

これからの学校教育に求められていることを頭ではイメージできますが、そこで留まらず、実際に各学校で行われている教育活動とどのように関わっているのか、より明確にしたいと考えました。

義務教育の学校では、様々な子どもたちが集まり、その中で、様々な教育活動が計画的に、総合的に、確実に、行われています。教育は、間違いなく社会を支えており、これまでも、これからもずっとそうであると考えます。

ただし、現在の教育活動をそのまま続けていけば、子どもたちは受け身にならざるを得ません。今後の最大の課題は、子どもたちを受け身にしないということです。今回のガイドブックで、最も伝えたいのは、そのことです。

そこで、前面に浮き出てきたキーワードが、“学び”であり、“学び合い”です。

“学び”や“学び合い”は、いたるところで大事なこととして取り上げられています。誰もが、当たり前のことと思えるほど、考え方は広がっています。しかしながら、実際の教育活動の中で具現化され、子どもたちの姿となっているのでしょうか。もし、まだ途上にあるなら、その課題は何で、どのような解決の見通しがあるのか、分かりやすく示すことができればと考えました。

西部教育事務所では、「学び」を「自ら関わり、考え、判断・行動し、成長に気付くこと」ととらえ、「自ら学び続け学び合う子供」を育む学校教育について考え、次のように表しました(図1)。



図1 「自ら学び続け学び合う子供」を育む学校教育イメージ

これまで積み上げてきた様々な教育活動を通して見られる、受け身ではない姿は、成長欲求に基づき「自ら学び続け学び合う子供」の姿です。基本となるプロセスは、「つかむ - やってみる - 振り返る」であると考えます【 これまでの西部型授業と“基軸”は同じです】。

これは、授業のみならず、すべての教育活動において、意識されるべきことです。学校の全教育活動、そこに携わる大人は、共通理解し、共通実践していくこととなります。メンバーが代わっても、継続していく教育活動でなければなりません。“振り返り”では、自分の成長をしっかりと意識し、成長欲求を満たすことができるように、大人のサポートが必要です。そして、“学び”“学び合い”が習慣として身についた時、成長欲求を満たす活動は、内発的に動機づけられ、大人の手を離れていきます。このことが、生涯にわたって“とことん学び続け、とことん学び合う人”へとつながっていきます。

冒頭で抜粋した、今後予想される社会においては、このような子供を育てていくことが重要になると考えます。学校を「子供たちが受け身で教えてもらうだけの場」にするのか、それとも、「子供たちの成長欲求を満たす学びの場」にするのかで、教育効果は大きく変わります。

(2) 「自ら学び続け学び合う子供」を育む教師の役割

中央教育審議会答申による「令和の日本型学校教育」においては、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげる」ことが求められています。このことを踏まえると、私たちは、教師の役割を「子供の自ら学び続け学び合う姿を支える」つまり、「内発的に動機付けられた学びとなるようにコーディネートする」こととらえています。

子供が自ら学び成長していくための原動力（エネルギー）である「成長欲求」に基づき、自らの成長に気付きながら、次の「学び」につなぎ生かしていく姿、つまり「自ら学び続け学び合う子供」の姿と「教師の役割」を次のように表しました（図2）。

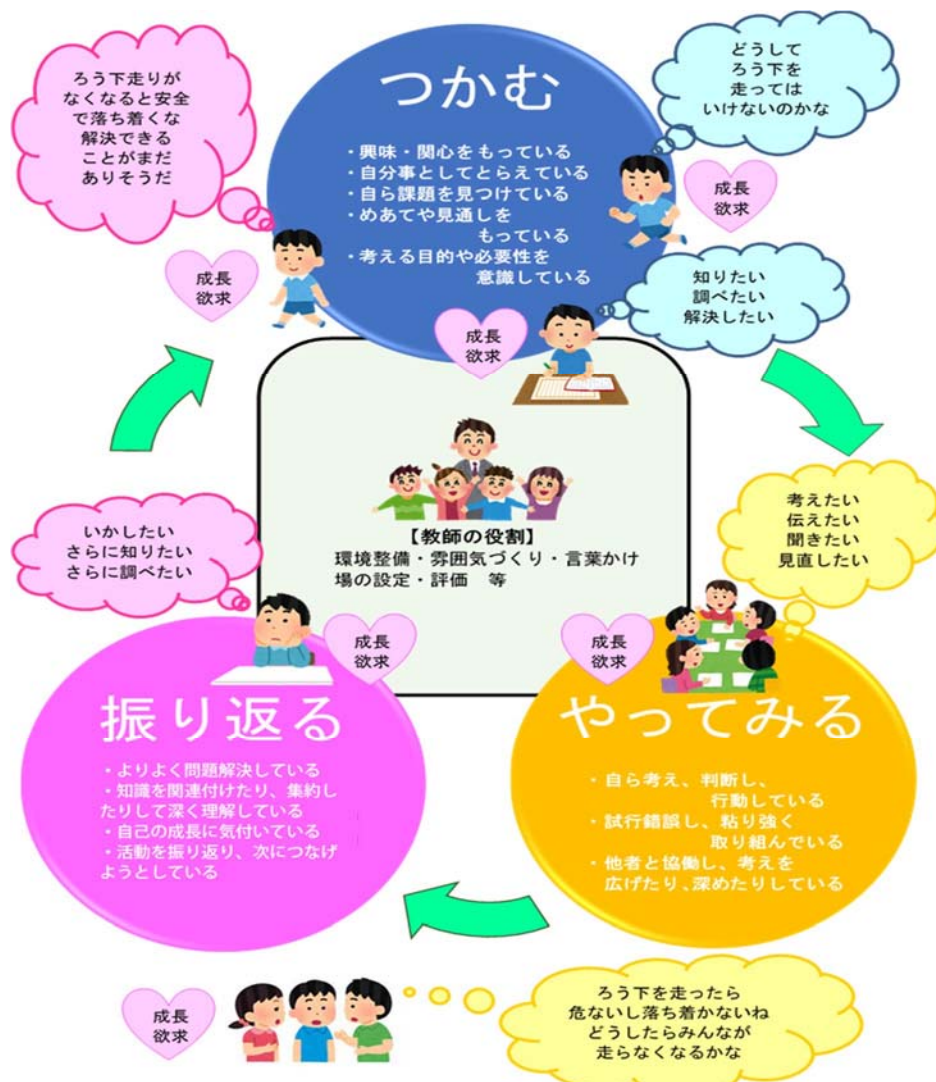


図2 「自ら学び続け学び合う子供」と教師の役割

子供は誰もが「どうして～かな」「どうしたら～かな」「～たい」「～したい」という成長欲求をもって日常生活を送っています。私たち教師は、その成長欲求を満たすために、どのような支援（環境整備、雰囲気づくり、言葉かけ、場の設定、評価等）ができるのか考えることが重要です。

学びの機会は日常生活の中に溢れています。このガイドブックは、「自ら学び続け学び合う子供」を育てるために、日々の教育活動の中で意識し、取り組んでもらいたいことをまとめています。私たち教師も「自ら学び続け学び合う子供」を育てるという視点で、現在の教育活動を見直してみましょう。

教師が「教える」だけでなく子供自らが「学ぶ」にはどうすればよいか、まずは、私たち教師自身の意識を変えていきましょう。


2 学習指導

(1)授業

ア 授業を学びへ

子供の「問い」や「思い」が学びの第一歩

なぜかな？
どうしてかな？



成長
欲求

考えてみたい
できるようになりたい

➡

「学び」のある授業へ

授業における学びとは

子供が自ら「問い」や「思い」をもち、問題解決のために自分で調べてみたり、友達や先生と、それぞれの考えを話したり聞いたりするなどして、見通しをもって粘り強く取り組むこと。そして、その時間での自分の変化や成長を実感し、次の学びや生活の中で生かそうとすること。

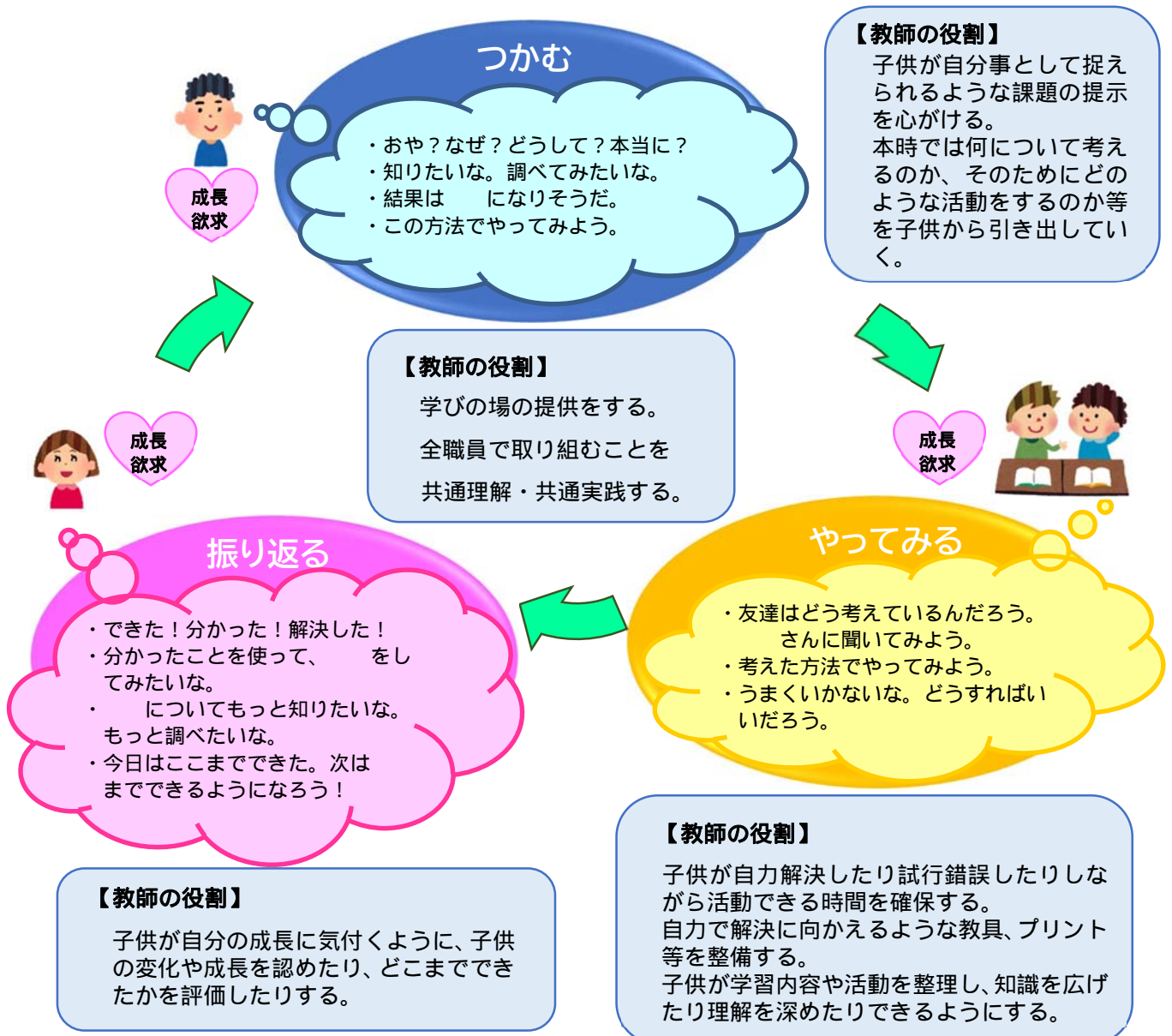
**型からの脱却
学びのある活動へ**

授業（活動）のねらいを明確にもち、子供自身が、「何のために行うのか」という目的をもって活動できるようにしましょう。

子供自身が学びを自覚できるように

振り返りの時間を確保し、子供が自ら学んだことを確かめ、次の学びへの意欲を高めていけるようにしましょう。

イ 授業を学びにする教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 授業を学びにするための授業づくりチェック

つかむ

子供が自分事として捉えられるような課題の提示をしている。
子供と一緒に「めあて」を立てている。
子供自身が「見通し」をもてるようにしている。

やってみる

子供自身が自力解決したり試行錯誤したりしながら活動できる時間にしている。
必要に応じて「書く活動」や「話し合う活動」を取り入れている。
机間指導等で子供を見取り、「個人差に応じた支援」をしている。
子供が知識を広げたり深めたりすることができるような支援（「話し合う活動」のコーディネートや板書）の工夫をしている。

振り返る

本時で学習したことを明確にするための「まとめ」をしている。
子供自身が自分の変化や成長に気付き、次の学びへの意欲を高めることができるための「振り返り」をしている。

具体的な方法は、別冊資料 P9～「授業を学びにするための教師の役割 Q&A」をご覧ください。

エ 関連資料

授業づくりのステップ 1・2・3 - 佐賀県教育センター
www.saga-ed.jp > 01_syou_kokugo > documents > saga_step_1

授業づくりのステップ 1・2・3 - 佐賀県教育センター
www.saga-ed.jp > 01_syou_kokugo > documents > saga_step_2

学力向上のための手びき | 西部教育事務所
www.education.saga.jp > s-kyoikujimusho > gallery_detail

「教師のしおり」 佐賀県教育委員会



【コラム】 どのように学ぶか

～「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善

「アクティブ・ラーニング」と聞くと、グループ・ディスカッションや子供たちがプレゼンテーションをする授業形態をイメージされるかもしれませんが、新しい学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点からの授業改善」とは、子供たちの「学び」そのものが、「アクティブ」で意味あるものとなっているかという視点から授業をより良くしていくことを指します。具体的にどのような授業を目指すか、リーフレットでは4つの例を挙げています。

- ・一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業
- ・見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業
- ・周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業
- ・自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業

このような授業を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、子供たちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けられるようになることを目指します。



新しい学習指導要領リーフレット 制作後記～リーフレットを読み解くためのヒント～ 文部科学省

(2) 家庭学習

ア 家庭学習を学びへ

やりたくないな...
どうしてしないといけないのかな...

➔

今日はこれに挑戦しよう！
今日はこれだけしよう！

家庭学習における学びとは

今の自分を見つめ、目標をもつ。自分で内容や時間を決める、自分で内容の軽重を判断する、自分で取り組む順番を決める。計画・実践を振り返り、成果と課題を整理することで、授業で学習したことの定着を実感したり、新たな知識や技能を獲得したりすること。

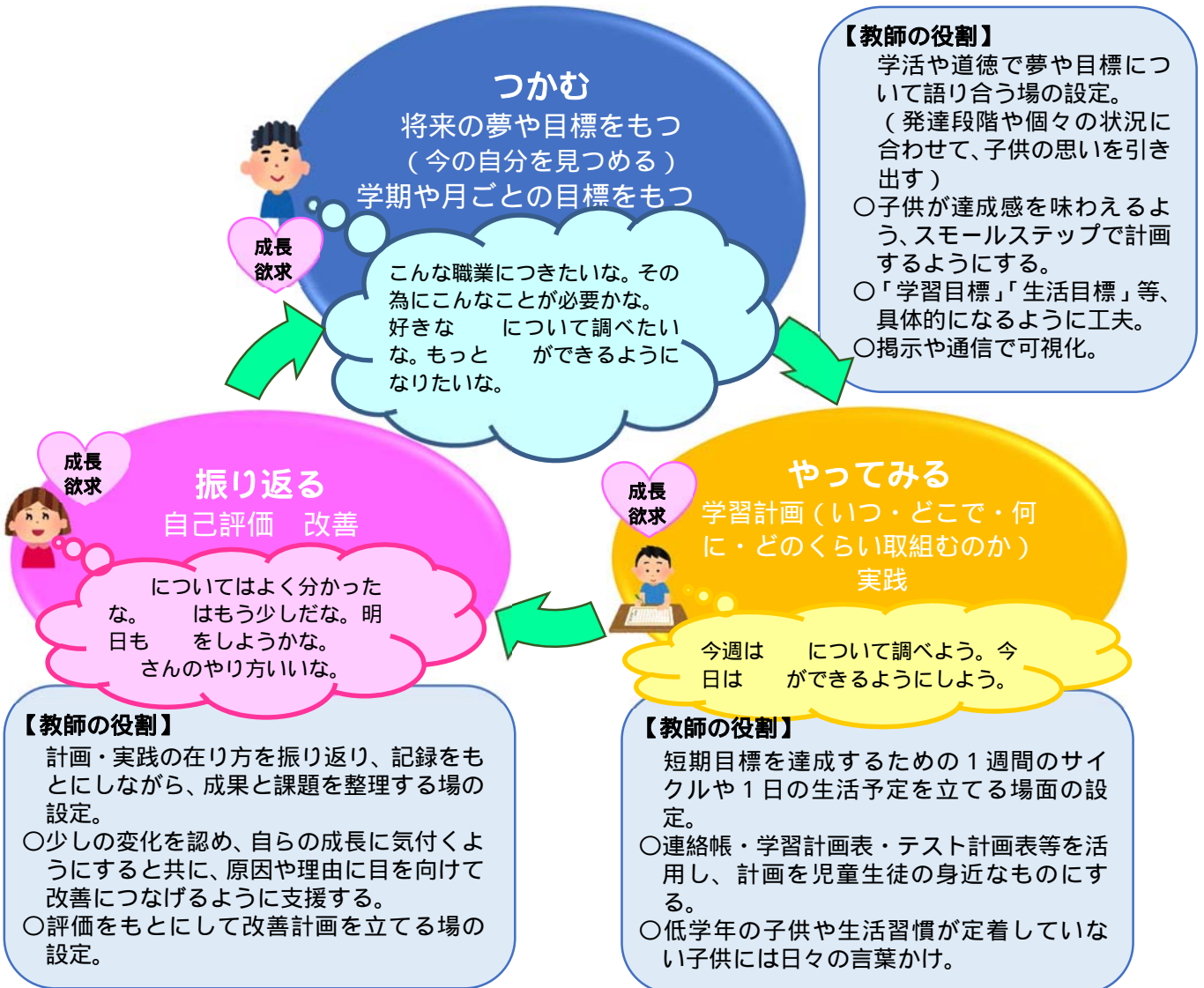
スモールステップで

子供が達成感を味わえるように、スモールステップで計画するようしたり、発達段階や個々の状況に合わせてみましょう。

自分の成長に
気づくように

少しの変化を認め、自らの成長に気付くようにすると共に、原因や理由に目を向けて改善につなげるように支援しましょう。

イ 家庭学習を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 家庭・地域との連携

学校や県・市町村が作成した「家庭学習の手引き」等を活用し、家庭学習に関する情報を積極的に発信していきましょう。特に、小学校低学年は保護者の援助が欠かせません。鉛筆の正しい持ち方や字を丁寧に書くポイントなど、目指す姿を具体的に伝えていきましょう。また、家庭での手伝いや、公民館・地域行事への参加を通して、学校での学習を深めたり広げたりしていきましょう。

エ 関連資料

【令和3年度版「家庭学習の手引き」】

家庭学習の手引き～保護者用リーフレット～（令和3年度配布用）

https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/kiji00354318/3_54318_197089_up_xv6s6c0p.pdf

【「学級・学校文化を創る特別活動（中学校編）」】

国立教育政策研究所 事例2 「自分に合った学習方法を考えよう」

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j_leaf.pdf

教師と子供がつながる

家庭学習カードのオンライン化

■校種・学年 : 小学校3学年以上

■活用の概要 :

クラウド上で家庭学習カードを共有。表計算ソフトで家庭学習カードのフォーマットを作成しておき、家庭にいる時間または朝活動を使って、学習の予定、家庭学習の取組時間、一言日記などを児童生徒が入力できるようにしている。

入力後は、すぐに共有化され、教師も確認することができる。確認するための時間が短縮され、児童生徒の学習状況の把握がしやすくなった。児童生徒の取組状況について、コメント機能を使ってなるべくタイムリーにフィードバックできるようにしている。

表計算ソフトで教師と児童生徒が
家庭学習カードを共有

»»

スピーディなフィードバックで
児童生徒のやる気向上

家庭学習カードは、表計算ソフトで作成。家庭学習を行った時間を
入力すると棒グラフになるように作成。視覚的に学習時間を確認できる。

カード（時間は半角で入力）			
持久走に向けて体力付けを頑張りたい。（具体的にはたくさん走る。）			
音読 (:●●)	漢字 (:●●)	算数 (:●●)	マイプラン (:●●)
0.05	0.30	0.30	0.10
	0.30	0.30	
0.05	0.30	0.30	0.10
0.05	0.30	0.30	0.20
0.05	0.30	0.30	0.20

The screenshot shows a digital interface for a home learning card. At the top, there's a date '11:20 11月11日'. Below it, a bar chart displays learning times for four subjects: 音読 (1:14), 漢字 (7:30), 算数 (10:50), and マイプラン (1:30). To the right, a diary entry is visible, mentioning '本番に向けて、クラスの士気が高まってきました。いい感じですね。' (Towards the real thing, the class spirit has risen. It's a good feeling.)

文部科学省 StuDX Style "すぐにも""どの教科でも""誰でも"活かせる1人1台端末の活用シーン

3 生徒指導

(1)生活上の問題

ア 生活上の問題を学びへ

生活上の問題をどうやって学びにつなげたらいいのかな？

生活上の様々な問題は、学びのチャンス

「掃除をさぼる人が多いよね。」 「楽しく学校生活を送りたい」 「掃除のやる気アップができないかな。」
 「みんなでやると早く終わるのに」 「もっと居心地の良い学校にしたい」

成長欲求

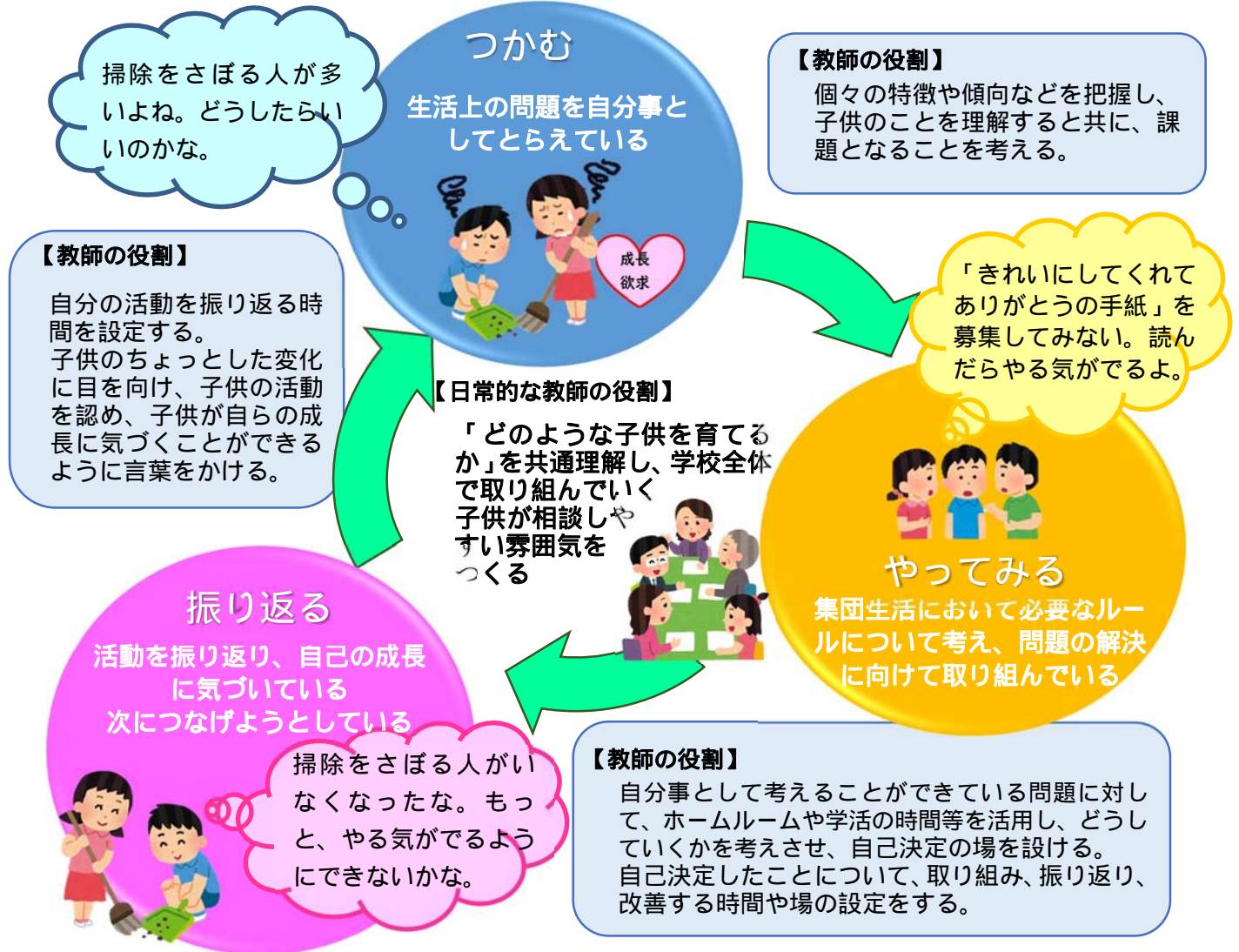
生活上の問題における学びとは

今よりもっと楽しく生活したい、居心地の良い学校にしたいという欲求をもとに、生活上の問題の解決に取り組む、活動を振り返って自己の成長に気づくこと。

注意されて自己肯定感ダウン → 学びを振り返って自己肯定感アップ

生活上の問題が注意だけで終わってしまうと、自己肯定感が低下してしまいます。学びの成果として「〇〇ができた」「みんなの役に立った」といった自己有用感を味わうことで、自己肯定感が高まり「もっと生活上の問題の解決に取り組もう」とする子供になります。

イ 生活上の問題を学ぶにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 生活上の問題を学びにする際に大切にしたい3つの視点

見つめる

(子供理解)

望ましい人間関係を土台に、一人一人の内面を見つめる

○日常的な子供理解(言葉かけ、観察)、子供の背景把握(保護者との情報共有)、多面的な子供理解(Q-U、各種アンケートなど)をもとに、その子供にあった具体的な指導や支援を考える。

支える

(学び支援)

子供が成長欲求を満たすことができるように、学びを支える

子供が自発的かつ主体的に自己を成長させていく学びの過程を、支援する。

○“魅力ある学級づくり”を通して、子供一人一人が活躍できる「居場所」を作る。

共感する

(自立支援)

「自尊感情」、「自己肯定感」、「自己有用感」、「自己効力感」などの成長に共感する

集団や社会の一員として自己実現を図っていく大人へと育つよう促す。

○児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを支援する。

エ 関連資料

・生徒指導提要(平成22年3月作成)

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書

文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm

・生徒指導リーフ(平成24年から)

ピンポイントで解説や提案を行う新しい形の生徒指導資料

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/index.html>



【コラム】信頼関係を土台にして

児童生徒と教員の間には好ましい人間関係をつくることが重視されなければなりません。信頼関係は教員の児童生徒に対する日ごろの接し方や言動によって作られるものです。一般的に、コミュニケーションで伝わる内容は、言語的内容は30%で、非言語的内容が70%とされています。つまり、教員は言葉だけではなく、言葉と同じメッセージを態度でも伝える必要があります。例えば、「廊下を歩くときはゆっくり歩く」、「児童生徒とすれ違うときは、目を合わせる、声をかける、笑顔を見せる」などを心がけることや、「廊下で児童生徒に声をかけられたら、足を止める、身体を逆向きにしないで話を聴く」、「職員室などで仕事に声をかけられたら、ペンを置く、キーボードから手を離す」などは、児童生徒との信頼関係を築くうえで大切なことです。

引用：生徒指導提要,平成22年3月作成,文部科学省

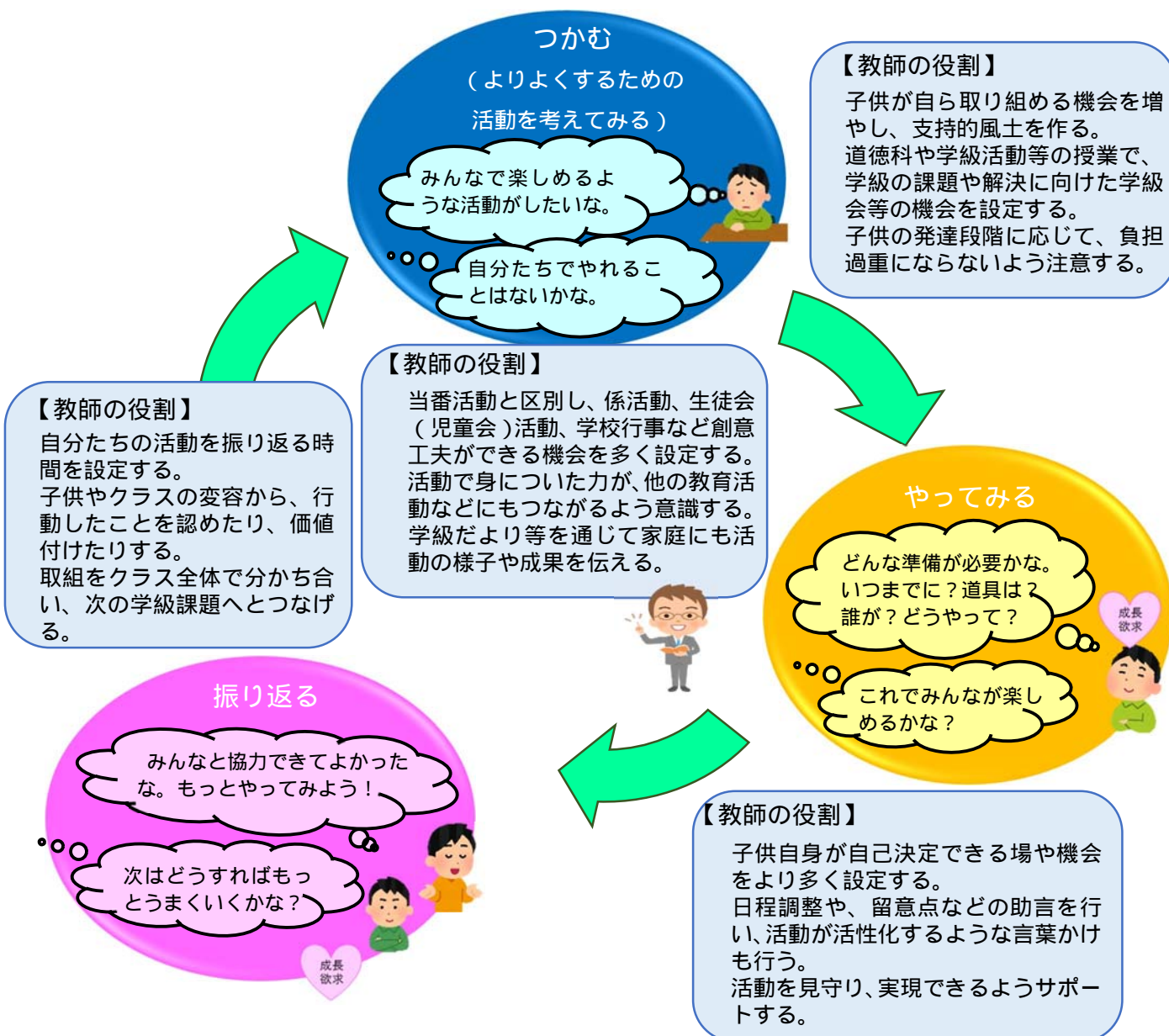


(2) 魅力ある集団づくり

ア 魅力ある集団づくりを学びへ

誰もが活躍できる集団 認められる集団	魅力ある集団	役に立てたらうれしいと思える集団 人と関わることが楽しいと思える集団
魅力ある集団づくりにおける学びとは 問題の回避や解決に向けて、自分たちで関わり、考え、判断・行動し、自分たちの成長に気づくこと。そして、それを新たな原動力にして、新たな課題の解決に向かっていくこと。		
自己有用感を 高めるように	一人一人の成長欲求を満たせるよう、ちょっとした変化を認め、価値づけしていきましょう。	
「今、できること」を	子供が自ら取り組める機会を増やす、自己決定する場を多く設定するなどのコーディネートをしましょう。	
学校に行きたい いじめなんてくだらない 不登校・いじめを減らすために最重要		未然防止

イ 魅力ある集団づくりを学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 魅力ある集団づくりを行う機会

学級活動、ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特別活動や日々の授業など、教育活動のすべての教育活動で行うことが重要です。問題を起こしそうな子供に特化して対応することなく、すべての子供たちを対象とします。

エ 関連資料

～不登校やいじめ問題の防止と解決、学校外の子供への対応については～

生徒指導リーフ 「絆づくり」と「居場所づくり」 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/>

子どもたちの SOS が聞こえますか？『いじめ問題の防止と解決に向けて』 佐賀県教育委員会

https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji/00333808

～組織的対応については～

生徒指導リーフ 学校の「組織」で行ういじめ「認知」の手順 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf19.pdf>

～「居場所づくり」と「絆づくり」については～

生徒指導リーフ 「絆づくり」と「居場所づくり」

生徒指導リーフ いじめの未然防止、

生徒指導リーフ 特別活動と生徒指導

生徒指導リーフ 「教育的予防」と「治療的予防」

国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/>

「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」(教師用指導資料)(平成30年12月)

国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_h301220-01.pdf

「学級・学校文化を創る特別活動(中学校編)」(教員向け指導資料)(平成28年3月)国立教育政策研究所

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j_leafb.pdf

【コラム】「(心の)居場所」と「絆づくり(の場)」

「居場所づくり」とは、文字通り、学級や学年、学校を子供の居場所になるようにしていくことです。様々な危険から子供を守るという安全はもとより、そこにいることに不安を感じたり、落ち着かない感じを持ったりしないという安心感も重要です。そのためには、授業改善、授業の見直しから始めていくことが必要になります。

「絆づくり」とは、教師がきちんと「居場所づくり」を進めているという前提のもとで、子供自らが主体的に取り組む活動の中で、互いのことを認め合ったり、心のつながりを感じたりできることです。子供同士と一緒に活動することを通して自ら感じとっていくものが「絆」であり「自己有用感」ですから、「絆づくり」を行うのはあくまでも子供(同士)です。

こうした視点で「授業づくり」と「集団づくり」を見直していくことができれば、いたずらにトラブルが起きることも、それがいじめへとエスカレートすることもなくなっていきます。きちんと授業に参加し、基礎的な学力を身につけ、認められているという実感を持った子供なら、いたずらにいじめの加害に向かうことはないはずだからです。

参考資料 生徒指導リーフ増刊号 いじめのない学校づくり1

(3) 不登校

ア 不登校を学びへ

ネガティブな感情は、「成長欲求」の証し

今の自分は
何もできない

➔

本当はやりたい
できるようになりたい

➔

**「社会的自立」への
学びのチャンス**

不登校における学びとは

一人一人異なるスタートラインから、外に出てみる、学校のことを考える、本を読んでもみるなど、今の自分にできることをやってみて、それぞれが少しの成長を実感すること。そして、新たなスタートラインから、そのときの自分にできることを積み重ねていくこと。

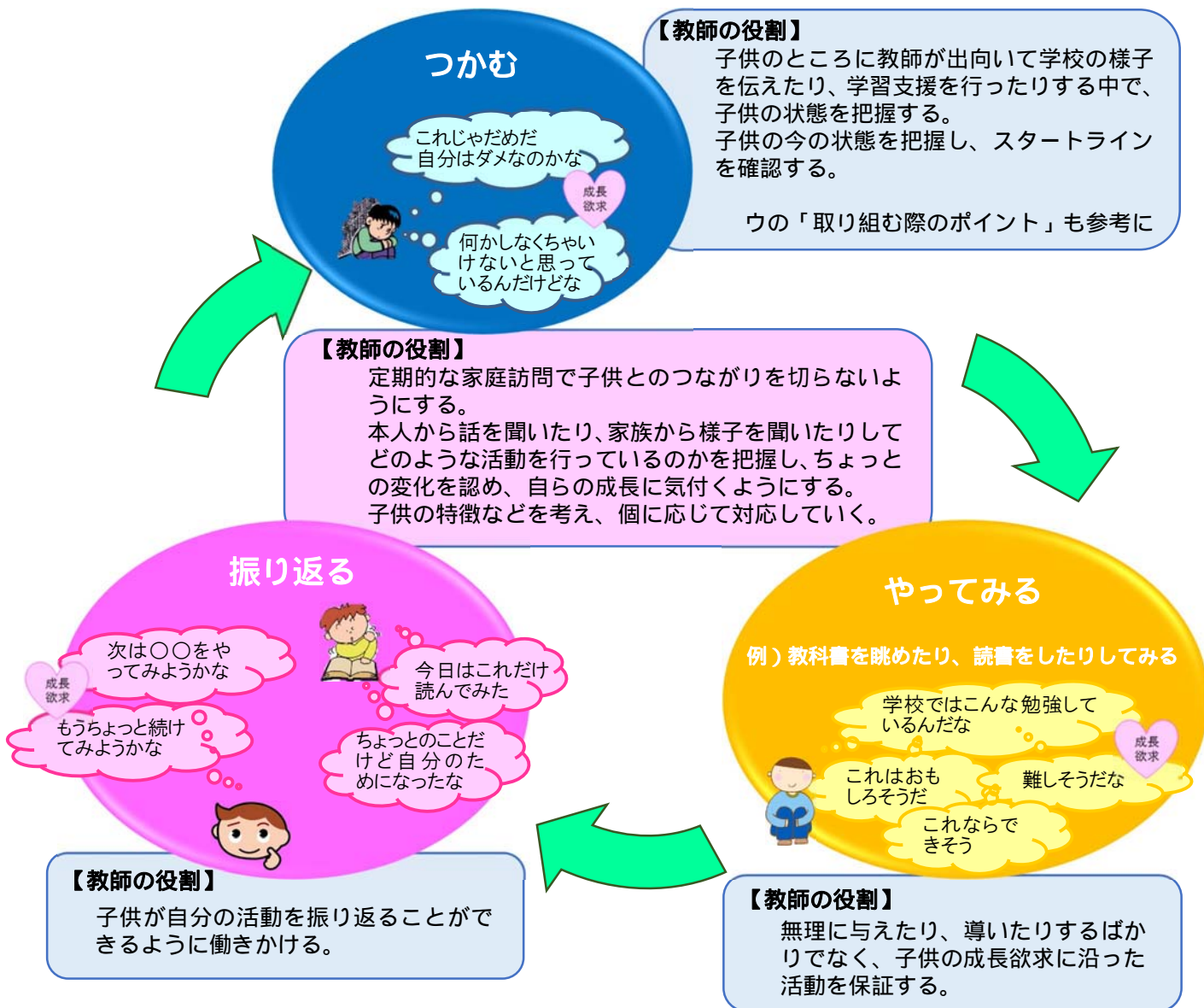
「今、できること」を

子供と一緒に今の状態を捉え、そこをスタートラインとして「今、できること」を積み重ねることができるようになります。

**子供自身が自分の成長
に気づくように**

一人一人の成長欲求を満たせるよう、ちょっとした変化を認め、価値づけしていきましょう。

イ 不登校を学びにするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ 不登校に取り組む際の3つのステップとその流れ

未然防止（健全育成）「魅力ある学校づくり」

初期対応「早期発見・早期対応」

自立支援「事後の対応・ケア」

～取り組む際のポイント～

本人、教師だけでは難しいことが多いので相談機関・支援機関のサポートも積極的に活用する。
(資料参照)

事後の対応では、急ぎすぎない。

ときには待つことも有効。

子供の状態を把握する中で、有効なタイミングを考え支援していく。

長い期間で考えると、なかなか前に進まず思い悩んでいる時間も、本人の成長のためには大切な時間と考える。今後必ず進むときがある。

不登校は、どの子供にも起こりうるものです。対応する先生、保護者などの気苦労も大きいものです。すべての子供が最初から学校に登校するという結果のみを目標にすると、子供、先生、保護者などにとっても高い壁となります。しかし、学びと捉えることで、壁も低くなり不登校を子供の成長の大きなチャンスとすることができま

エ 関連資料

～居場所づくり、絆づくりについては～

生徒指導リーフ「絆づくり」と「居場所づくり」 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf02.pdf>

～具体的な対応方法については～

長期欠席・不登校対策スタンダード 佐賀県教育委員会

https://www.saga-ed.jp/shidou/soudan/pdf/030_satandard_honhen.pdf

～県内の相談機関・支援機関を探すには～

佐賀県子ども・若者自立支援マップ 佐賀県 健康福祉部 こども未来課

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00333010/3_33010_203672_up_i4rp2nr1.pdf

～その他不登校関係資料を探すなら～

佐賀県教育センターホームページ 佐賀県不登校関係資料集

<https://www.saga-ed.jp/soudan-shien/sourcebook/>

【コラム】「褒めること」と「認めること」の違い

大人が子供を「褒める」ときは、一般に大人の基準や水準で「褒める」ことが多いよう傾向にあります。そして、大人の側の基準で一定の水準を達した、水準を超えたと評価するのが「褒める」という行為と言えます。

子供自身の目標、工夫する点や努力する点(子どもの基準)に沿って、子供がどこまで達成できたかを(大人が)評価することが「認める」ということにつながります。

教師が子供の自ら学ぶ姿を支えるために大切なことは、大人(教師)が子供を「認める」ことです。このことにより、子供自身が自らの成長に気づき、自己有用感が高まり、自ら学び続けることができるようになっていきます。



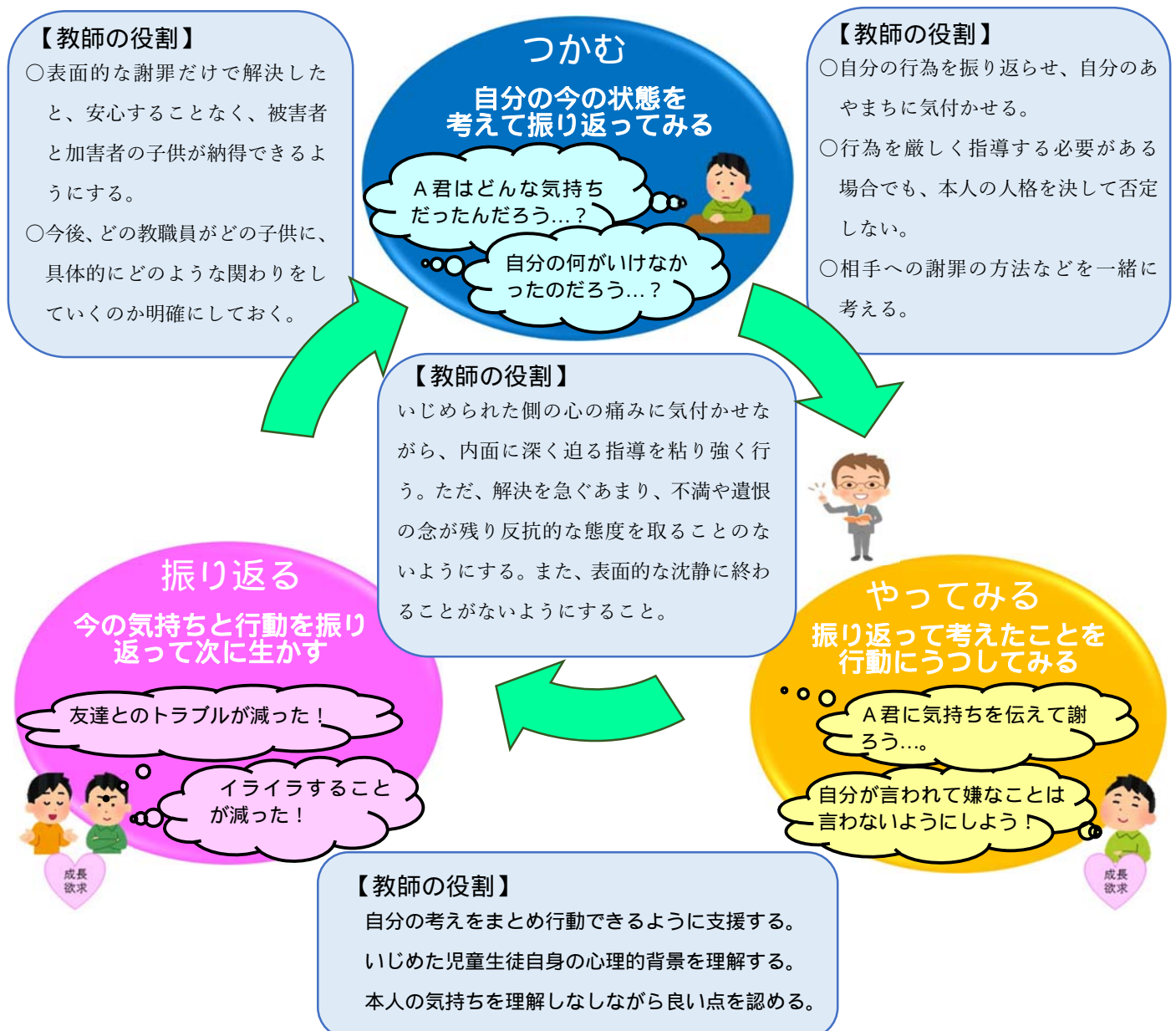
参考資料 生徒指導リーフ Leaf.18 「自尊感情」?それとも「自己有用感」?

(4) いじめ

ア いじめ問題を学びへ



イ いじめ問題を学ぶするための教師の役割と「自ら学び続け学び合う子供」の姿



ウ いじめ問題に取り組む際の3つの視点とその流れ

いじめ問題の防止と解決に向けて～『いじめを見逃さない体制づくり』

教職員の指導力向上

～教職員の指導力向上のための研修の充実～

校内体制の強化と教育相談の充実

～学校いじめ対策委員会等を中心とした校内体制と教育相談主任を中心とした相談体制の強化～

学校外のいじめの対応

～関係機関や相談機関との連携～

エ 関連資料

～いじめ問題の防止と解決、学校外のいじめ対応については～

子どもたちのSOSが聞こえますか？『いじめ問題の防止と解決に向けて』 佐賀県教育委員会

https://www.pref.saga.lg.jp/kyouiku/ki_ji/00333808

～組織的対応については～

生徒指導リーフ 学校の「組織」で行ういじめ「認知」の手順 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf19.pdf>

～「サイクル」進めた実践については～

生徒指導リーフ増刊号 いじめのない学校づくり2 国立教育政策研究所

<https://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaves.pdf>

【コラム】 いじめ対策は「サイクル」で！

いじめ対策のために何か特別なことをするのではなく、日々の授業や行事を改善する中でいじめが生まれにくい風土を作りだす、そうした地道な未然防止の取組を着実に実行する際に役立つのが、サイクルを進める考え方です。たとえば、次のような一連の手順が必要なのです。

「課題（実態を踏まえた、児童生徒の問題点）」の設定

「目標（課題から導かれる、年度内に達成したい児童生徒の好ましい姿）」の設定

「取組（内容と実施日程）」の設定

「実行（上記の取組の実施）」

「チェック（児童生徒対象のアンケート調査による）」

「〔課題〕〔目標〕〔取組〕の修正」 * にもどる

P 計画

D 実行

C 点検

A 修正 = 計画

未然防止の取組を積極的に進めるには、まだ表面に現れていない児童生徒の課題を発見する試みと、そこで明らかになった課題を解決していくための計画的な取組が重要になってきます。

参考資料 生徒指導リーフ いじめの未然防止 I

教育基本法に基づいた人格の完成を目指す



人格の完成を目指した教育活動

生きる力の三要素【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

- A 確かな学力【頭を使う（考える）】
- B 豊かな心【人と関わる】
- C 健やかな体【体を使う】

【義務教育9年間で育ってほしい10の姿】

- 1 主体的に社会の形成に関わる態度 B
(自主・自律、協同、規範意識、公正な判断力、公共の精神)
- 2 生命尊重・自然愛護の精神・態度 B
- 3 国や郷土を愛する心・国際理解・国際親善 B
- 4 家庭生活、学校生活、社会生活の充実 B
- 5 国語の理解と伝達能力 A
- 6 数量関係の理解と処理能力 A
- 7 自然現象の科学的理解と処理能力 A
- 8 生活習慣、体力向上、心身の調和的発達 C
- 9 芸術の基礎的な理解と技能 B
- 10 勤労の精神、進路選択能力 B

参考資料：学校教育法（抄）

【幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿】

- 1 健康な心と体 C
- 2 自立心 B
- 3 協同性 B
- 4 道徳性・規範意識の芽生え B
- 5 社会生活との関わり B
- 6 思考力の芽生え A
- 7 自然との関わり・生命尊重 B
- 8 数量や図形、標識や文字への関心・感覚 A
- 9 言葉による伝え合い A
- 10 豊かな感性と表現 B

出典：幼稚園教育要領 第1章 第2の3